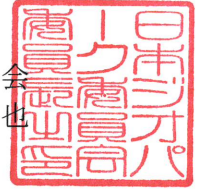


2022年3月3日

秩父まるとジオパーク推進協議会
会長 北堀 篤 様

日本ジオパーク委員会
委員長 中田 節也



第44回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2022年1月28日に行われた第44回日本ジオパーク委員会において、貴地域は再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

条件付き再認定後の取り組みの中で、指摘事項への対応にはそれぞれある程度の進展が見られた。一般にも分かりやすいジオパーク秩父の公式ガイドブックが出版され、それが活用される中で、ジオパークの理念の共有もそれなりに進んだと思われる。ジオパークの事務局に運営委員会のコアメンバーを絡ませたことや、協議会内に3部会を設置し役割分担を明確にすることによって、全体的に稼働しやすい形となりつつある。特筆すべきは、ジオパークへの理解が深い民間事業者の新規参画によってジオパーク秩父の活動が質的に向上するきっかけが生まれている。

一方、活動の指針となる基本計画が未完成である。ガイドは依然として地質にやや偏った解説的な案内を行っており、参加者とのコミュニケーションのもと、暮らしや文化、産業などの身近な素材につながる話にも展開できていない。今後、関係者が対話して基本計画などを作り上げる中で、さらにジオパークの理念や目的を共有し前進してほしい。

【優れている点】

- ・前回の条件付き再認定以降、運営委員のコアメンバーがJGN行事に積極参加、JGN事務局員を講師に招待、筑波山地域ジオパークとの交流、他地域の現地調査の視察を進めるなど、ネットワークへの積極的参加が認められるようになった。
- ・一般にも分かりやすいジオパーク秩父の公式ガイドブック「秩父に息づく大地の記憶」が出版され、これを活用した取り組みや広報活動が広がりを見せるようになってきた。
- ・事務局以外の5人のコアメンバーを設置することによって、事務局への業務集中を避けるとともに、地域的広がりを担保できるようになった。
- ・埼玉県立自然の博物館の学芸員が、運営委員会のコアメンバーとして主体的に加わったことにより、「事務局」体制が強化された。
- ・民間事業者、「いこいの村へリテイジ美の山」(皆野町)、奥秩父源流プロジェクトを展開する「錦トラベル」(秩父市)、「タテノイト」(横瀬町)など、新しい協力者の増加による活動が広がっている。

【今後の課題・改善すべき点】

- I 緊急に着手しないし解決すべき課題 (おおむね1年以内)
1. コアメンバーや3部会がリードして、協議会メンバーを含む1市4町の関係者がよく対話しながら、4つのジオストーリーを理解し、ジオパーク秩父の基本計画と保全計画を早期に固めてほしい。
 2. 地域住民にとって身近に感じられる文化遺産をジオパーク活動の中でもっと重点的に取り扱い、ジオパークに対する理解を深めるとともに、文化遺産の保護と活用を推進してほしい。

II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

3. 解説看板については過去設置のものを見直すとともに、タイトルやリード文、外国語表記に工夫を施すなど、各ジオサイトの価値や面白さ、魅力が一般の人にもわかりやすく伝わるような整備を続けてほしい。
4. 多様な参加者の興味を刺激して理解度を高めながら、楽しく印象に残るガイドツアーを展開してほしい。①画一的な解説を一方的に行うのではなく、コミュニケーションの中で相手の属性や基礎知識・関心事を読み取り、相手に合わせて話を組み立て、②参加者が五感で感じ、自ら気づく体験を促し、③地学現象が意味することが自分たちの暮らしにどう繋がっているのか、ツアー全体を通したテーマとストーリーを組み立てながら、ジオパーク秩父の何を伝えたいかを意識したガイディングを行ってほしい。
5. パートナシップに関して、すでにリスト化した事業者や団体との公式協定を結び、地域ブランド商品の発掘や販売を支援する仕組みの検討が必要である。すでに活発な活動を続けている民間事業者とジオパークの双方が利益となるような協定を早急に結んでほしい。

III 中長期的に解決すべき事項

6. 拠点施設に関しては、「埼玉県立自然の博物館」では、ジオパーク秩父の可視性向上を、「秩父市歴史文化伝承館」では、来館者のジオパークコーナーへの誘導を、展示内容を更新する予定の「おがの化石館」では、子どもたちにもジオパークの魅力がわかりやすく、親しみが感じられるように企画や仕組みをそれぞれ工夫してほしい。産業や文化の関連施設との連携を進め、ジオと人々の暮らしや産業とのつながりを理解し、ジオパークを楽しむ側面を見せられるようにしてほしい。
7. 小中学校の生徒の発達段階に応じたジオパーク学習カリキュラムを設け、教員研修としてもジオパーク学習を制度化することが望ましい。また、「持続可能な社会の作り手」を育むために、SDGsの理念を意識した取り組みを進めてほしい。
8. 現在のコアメンバーを含む「事務局」体制については、引き続き、地域全体の意見を反映し、安定した運営ができるよう維持してほしい。また、部会などを含む協議会における構成員のジェンダーバランスを意識した運営を進めてほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、4年後の再審査の際の審査対象とします。

以上